

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	令和 6 年度瑞穂町子ども・子育て会議（第 1 回）	
開 催 日 時	令和 6 年 5 月 17 日（金）午後 6 時 30 分から午後 7 時 30 分まで	
出席者及び 欠 席 者	【出席者】委員 10 名、事務局 3 名、関連部署職員 6 名、コンサルタント 2 名 合計 21 名 【欠席者】委員 2 名	
次 第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議題 （1）瑞穂町子ども計画について （2）瑞穂町子ども計画の調査項目に関する協議について 4 その他 5 閉 会	
傍 聴 者	1 名	
配 布 資 料	当日配布 ・ 次第 ・ 瑞穂町子ども・子育て会議 委員名簿 ・ 瑞穂町子ども計画の策定計画について ・ 「こどもまんなか社会」の実現にむけたこども施策の重要事項を推進するためのニーズ調査内容（暫定案） ・ 策定スケジュールについて ・ 令和 6 年度瑞穂町子ども・子育て会議日程（案）	
会 議 内 容 （主な意見 等を原則と して発言順 に記載。）	1 開 会 （会長） 2 あいさつ （会長）	本日の出席委員は 10 名である。瑞穂町子ども・子育て会議条例第 7 条の規定に基づき、半数以上の委員の出席により会議が成立となるため、開会する。 委員の方々は昨年度に続いて、このような大事な会議の委員を引き続きやっていただけるということで、大変心強く思っている。 先日まで寒い日が続いたと思ったら、今日は暖かく、明日はさらに暖かくなるということで、子育て真っ最中の方々や、学校・保育園等関係の方々にとっては、子どもたちの健康管理について大事な時期だと思う。気候が安定しない中、出席していただきありがたい。 これより議題に入る。

	3 議題 (事務局) (会長) (委員) (事務局) (委員) (事務局) (会長)	(1) 瑞穂町子ども計画について ※(資料)「瑞穂町子ども計画の策定計画について」を用いて説明を行う。 事務局より説明があったが、何か質問はあるか。 3月の会議の時に欠席したので、その時に話があったかもしれないが、昨年の冬にニーズ調査を行っているが、その後さらにニーズ調査を行うということで、様々な計画をこの会議を中心に立てていくということか。 昨年度のニーズ調査は第3期子ども・子育て支援事業計画を策定するために必要な、未就学児や小学生の保護者を対象に、子育てに関するニーズ調査を実施した。令和6年度は子ども計画という大きな計画の中に、色々な計画を包含し、一体化して作成することができると国から通知があった。関連する様々な計画の中に必要となる部分、子どもの生活実態調査や子ども・若者育成支援に関する意識調査を柱としたうえで、包含する各計画の作成に必要な調査を行うものなので、昨年度とは視点を変えて、子どもたちを中心に意見を聞くような流れになっている。今年度は小5・中2・高2・一般町民18歳～39歳の方まで幅広く調査する予定である。 瑞穂町子ども計画の中に様々な計画が盛り込まれるということか。 子ども計画の中に盛り込んでパッケージ化するというイメージである。 他に質問等ないか。議題2で調査項目に関する説明があり、協議が行われるので、何かあれ
--	---	---

		ばお願いしたい。 (2) 瑞穂町子ども計画の調査項目に関する協議について アンケートの回収率を上げるために、令和5年度に実施したニーズ調査との重複は避けて、必要最低限の設問項目にするとともに、基本は紙ベースであるが、紙ベースに2次元コードを入れて、インターネットでより簡単に回答できるLogoフォームの活用を考えている。近隣市でも実施していて、2次元コードを使ったから回収率が上がったとは聞いていないが、回答する方にとってはスマートフォンで気軽に、時間があればすぐ出来るというイメージで、回答する方の手間が省けてやってみようという人が1人でも増えればいいと思うので試してみたい。 資料3の詳細の説明について、(株)シティ・プランニングより行う。
	(事務局)	
	(コンサルタント)	※(資料)「こどもまんなか社会の実現にむけたこども施策の重要事項を推進するためのニーズ調査内容(暫定案)」を用いて説明を行う。
	(会長)	事務局の方から、回収率を上げるために前回の調査と重複する設問は避けるという説明があった。項目数が多ければ詳しく調べられる一方で、調査が大変になるということで設問を絞っていくことになるが、今の段階で質問はあるか。
	(委員)	昨日資料に目を通したが、意味がよく分からず、質問することも具体的には言えないが、説明で小・中・高の子どもたちにアンケートを取るということも分かったし、保護者ではない一般の人にもアンケートを取ることが分かった。 例えば小・中学生のアンケートは学校で実施するのか、郵送で行うのか、該当学年の児童全

		員にアンケートを行う予定なのか。 あと一般と保護者と高校生に対しては無作為になると思うが、どれぐらいの数を予定しているのか。 あと、具体的な設問は今後出てきて、たたき台があって、それに対して意見が言える時間があるということか。
	(事務局)	小・中学生については、学校を経由してお願いしようと思っている。児童・生徒分は学校で回収し、保護者は返信用封筒にて郵送での回収を考えている。高校2年生は、今年4月1日現在の町の住民基本台帳の年齢を見ると、約280名程度いるので漏れなく皆さんにお願いしようと考えている。また、18歳から39歳の一般については、同じく4月1日現在の住民基本台帳によると約7,000人いるので、その中から1,000人を抽出して依頼しようと考えている。小学生は245人、中学生は253人にお願いすることを想定している。 ニーズ調査の暫定案を踏まえた設問については、これから役場の内部で話をしながら、具体的な設問が出来た際には、次回の会議は6月の下旬辺りを想定しているが、委員の皆様に見えていただいて、了承を得てから発送しようと考えている。
	(委員)	前回調査を踏まえると小学生に対して、質問項目が多いと感じる。小学5年生がアンケートに答えることによって、自分にどう返ってくるのか見えないと、協力する意欲も少ないので、10問ぐらいが適当ではないか。
	(事務局)	質問を必要最低限に絞って、来月の会議で示したいと思う。
	(会長)	今、タイムテーブルが出てきたが、具体的な

		質問や項目を見ないことには意見も出ないと思うので、次回の第2回ではより具体的なものが出てくるということで、今回は調査検討項目や活用方法、対象等がこれで良いのか、大きな括りで見えていただきたい。
	(委員)	小・中学生は学校で配布して、家で回答するということか。
	(事務局)	一番良い方法は、学校にこちらから出向いて説明をして、その場で回答してもらうのが、回収率も一番上がるし理想だと思うが、学校も色々と忙しい中で時間を取れないと思うので、今回は学校を経由して配布の協力をお願いする形を考えている。
	(委員)	アンケートなので強制できず、協力するという方だけになると、学校で行うことは難しい。
	(委員)	うちの場合だと、子どもがちゃんと持って帰ってくるかも心配だし、家でやらせるのも難しい。
	(委員)	回収率は多分下がると思う。 共通というのは、小・中・高生も含めてということか。
	(事務局)	小・中・高生、保護者、一般全てということである。
	(会長)	認知度という言葉が入っているが、尺度は「知っている」「知らない」ということになるのか。
	(コンサルタント)	「知っている」「聞いたことがある」「知らない」といった程度の認知度を測ろうと思っている。

	(会長)	選択肢が与えられているということなので、時間さえあれば、ある程度回答できるようだが、他に何か意見や質問はないか。
	(事務局)	皆さんに意見をお伺いしたいのだが、前回の調査について、小学生の保護者に対して 26 問、未就学児の保護者に対しては 40 問であったが、もしご自身が保護者や一般市民という立場でアンケートをもらったときに、何問程度なら良いか教えていただけるとありがたい。
	(委員)	私は未就学児の保護者として回答したが、正直多くて大変だったので、10 から 15 問程度が良いのではないかと。2 次元コードを使うにしても、スワイプするのも大変なので、選択すると次の質問が自動的に出てくるような設定であれば、15 から 20 問ぐらいは回答できるのではないかと思います。
	(会長)	時間にしてどれくらいで終われるものが適当か。
	(委員)	5 分から 10 分程度で終われるものが良い。
	(委員)	状況によるが、昼休みだったら 5 分程度で済ませたいが、子どもについてのアンケートは大事だと思えば、子どもを寝かしつけた後で等、15 分程度は取れると思う。20 問程度が適切だと思う。
	(委員)	前回のニーズ調査は未就学児保護者 40 問、小学生保護者 26 問あったが、このぐらいの分量がないと把握できないのではないかと。
	(コンサルタント)	昨年行ったニーズ調査は教育・保育の量の見込みと目標量を設定するために、国が必ずやるように定めたものがあって、こちらでは削るこ

		とができなかったが、今回は生活実態の状況を把握したり、子どもの意見を聞いたりということで制約はない。今話を聞いていて思ったのは、アンケートの表紙に「このアンケートにかかる時間は 10 分です」と書いておけば、回答してもらえるのではないかと。極力簡単にした方がいいのではないかと考えた。
	(会長)	自由記載は設けるのか。
	(コンサルタント)	設定した方がいいという事であれば設けるが、どうか。
	(委員)	自由記載はあった方がいいと思う。
	(委員)	紙での回答とインターネットでの回答を重複して提出する人が出てくるのではないかと。
	(事務局)	番号があるので、重複している場合は分かるようになっている。
	(委員)	2 部制に分けて、必要最低限答える 1 部と、時間がありまだまだ答えられる人には 2 部にも答えてもらえるようにしてはどうか。
	(コンサルタント)	そういった工夫は面白いと思うので検討する。
	(委員)	小学 5 年生に対して、町の方針としてこれだけは必須で答えてほしいということとはできないのか。
	(事務局)	今は教育委員会に協力をお願いしている形だが、必須となると、全保護者に理解してもらう必要があるのでは難しい。
	(委員)	虐待に関する項目もあり、家庭内で子どもが

		正直に書くか疑問である。
	(コンサルタント)	アンケートの調査項目については、こちらで概ね作成するが、皆さんの意見を聞きながら、減らしていく作業があってもいいと思う。
	(会長)	アンケートをやるもやらないも、1つの子どもの権利なので強制できない。
	(委員)	虐待の項目等、教育委員会の方で行っている調査内容ともリンクしているものもある。教育委員会との連携も必要である。
	(会長)	虐待の問題などは例えば無記名でアンケートを行った場合、虐待されていると書いてあっても追跡調査も出来ないような状況である。実際にアンケートを実施して、虐待が行われているというデータが出てきたときに、どうするのかという問題もある。 他に何か意見はあるか。 第2回の会議では具体的に話ができると思うので、本日はこれで終わりにする。
	4 その他 (事務局)	策定スケジュールについて ※資料「策定スケジュールについて」・「令和6年度瑞穂町子ども・子育て会議日程（案）」を用いて説明（次回の会議は6月24日を予定）
	5 閉 会 (副会長)	本日の話しの中で、ニーズ調査が行われると聞いたが、委員の私達からすればたくさんの方々にアンケートの協力をお願いすることになる。お願いしやすいように、事務局の方でよく精査して、アンケート内容を作成していただきたい。 以上で瑞穂町子ども・子育て会議を終了する。